

# 2023 第1回 阪大本番レベル模試（人外法経）

採点基準

■現代文 採点の原則

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 文脈のねじれがある、また主述の対応に問題があると判断される場合は、要素ごとに加点した上で、全体から2点減点する。
- ③ 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠如については、一つごとに1点減点する。

□ 現代文 50点

問一 2点×5＝10点

- (a) 偏在 (b) 撤廃 (c) 指弾  
(d) 余暇 (e) 魅力

問二 12点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○2点

C○3点

民主的な投票で、法律と政策を変更し、労働者の賃上げ、富裕層や大企業への課税の高率化、独占の禁止の

D○2点

E○3点

強化等によって経済成長を回復させ、社会保障が充実し、万人が豊かなミドルクラスになれるような公正

な資本主義。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十次～百字 **三十九字以下のものは全体不可（0点）**

■要素A「民主的な投票で」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「法律と政策を変更し」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C 「労働者の賃上げ、富裕層や大企業への課税の高率化、独占の禁止の強化等によって」…3点
- ・「労働者の賃上げ」「富裕層や大企業への課税の高率化」「独占の禁止の強化」を各1点とし、それぞれについて、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
  - ・いずれかの一つを欠けば2点、二つを欠けば1点とする。

■要素D 「経済成長を回復させ、社会保障が充実し」…2点

- ・「経済成長を回復させ」「社会保障が充実し」を各1点とし、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・いずれか一つを欠く場合、また全体として説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「万人が豊かなミドルクラスになれるような公正な資本主義」…3点

- ・「万人が豊かなミドルクラスになれるような公正な資本主義」に2点、「公正な（資本主義）」に1点が目安。
- ・全体として説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素F 文末表現は「…資本主義」という形を原則とするが、資本主義の内容を説明した答案として妥当な文末表現であると判断できれば、広く許容して可。不適切と判断される場合はマイナス1点。

問三 12点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇2点

C〇3点

本来成長を目指す資本主義を維持しつつ、脱成長を目指すという矛盾により、企業が利益追求と経費削減を

D〇2点

E〇3点

断行したために、労働者は賃下げや労働分配率の低下に直面し、貧富の格差による社会的分断で人心が傷ついたから。

■採点方法…各要素単独採点

- 字数…八十次～百字 **三十九字以下のものは全体不可(0点)**

■要素A 「本来成長を目指す資本主義を維持しつつ」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。
- ・単に「資本主義」としているものは1点減点。

■要素B 「脱成長を目指すという矛盾により」…2点

- ・「矛盾」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「企業が利益追求と経費削減を断行したために」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「利益追求」「経費削減」のいずれかを欠く場合は2点
- ・全体として説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「労働者は賃下げや労働分配率の低下に直面し」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「賃下げ」「労働分配率の低下」のいずれかを欠く場合、また、全体として説明が曖昧であると判断される場合は1点。(例)「パイも小さくなり、安心した仕事が減っていく」↓1点

■要素E 「貧富の格差による社会的分断で人心が傷ついた」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「貧富の格差による」「社会的分断」のいずれかと同等の説明を欠く場合は2点
- ・ 全体として説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 文末表現は「…から…ので」という形が原則。理由説明答案の文末表現として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問四 16点

■形式上の不備

- ・ 文末表現は要素H参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A〇2点

B〇2点

C〇3点

資本主義を前提とした脱成長ではなく、私的所有や階級、貨幣や市場といった資本主義の本質的特徴そのものを問題にし、労働を抜本的に変革し、搾取と支配の階級的対立を乗り越え、自由、平等で、公正かつ

D〇2点

E〇2点

F〇2点

G〇3点

持続可能な社会を打ち立てることを目指そうとするもの。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百字〜百二十字 **四十九字以下のものは全体不可(0点)**

■要素A 「資本主義を前提とした脱成長ではなく」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「私的所有や階級、貨幣や市場といった」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「私的所有や階級」「貨幣や市場」のいずれかを欠く、また説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「資本主義の本質的特徴そのものを問題にし」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「労働を抜本的に変革し」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「搾取と支配の階級的対立を乗り越え」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「搾取と支配の」を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「自由、平等で公正」…2点

- ・ 「自由」「平等」「公正」の内の二つが示され、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「自由」「平等」「公正」のいずれか一つしか示されていない、また説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「持続可能な社会を打ち立てることを目指そうとする」…3点

- ・ 「持続可能な社会を目指す」というニュアンスが読み取れば広く許容して可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素H 「新世代の脱成長論」を説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容して

可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

Ⅱ 現代文 50 点

問一 2 点×5＝10 点

(a) 流布 (b) 旨 (c) 遺物

(d) 軽蔑 (e) 溯(溯)

問二 12 点

■形式上の不備

・文末表現は要素 F 参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

■採点方法…各要素単独採点

A○3 点

B○2 点

C○2 点

西洋由来ではない他の諸文明の思想は哲学ではないという基準に歴史的な根拠はなく、人々や時代、社会に

D○2 点

E○3 点

広く大きな影響を与えた偉大な文明に貢献したものが哲学だという基準は、権威主義、権力志向だと考えている。

■字数…八十次～百字 三十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素 A 「西洋由来ではない他の諸文明の思想は哲学ではないという基準」…3 点

・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・説明が曖昧であると判断される場合は 1 点。

・単に「西洋中心主義・西洋由来」としている場合 1 点。

■要素 B 「(A に)歴史的な根拠はなく」…2 点

・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・説明が曖昧であると判断される場合は 1 点。

・「歴史的」のヌケは 1 点減点

■要素 C 「人々や時代、社会に広く大きな影響を与えた」…2 点

・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・説明が曖昧であると判断される場合は 1 点。

■要素 D 「偉大な文明に貢献したもののだけが哲学だという基準」…2 点

・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・説明が曖昧であると判断される場合は 1 点。

・「偉大さ」だけへの言及の場合、1 点。

- 要素E「(C+Dは)権威主義、権力志向だと考えている」…3点
- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
  - ・ 「権威主義」「権力志向」のいずれか一つを欠く場合は2点
  - ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素F 基準を提示し、それについての筆者の考えを説明する答案の文末形式として妥当であると判断できれば、広く許容して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

### 問三 12点

- 形式上の不備

- ・ 文末表現は要素G参照

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○1点 B○2点

C○2点

思考とは、前提を疑い再検討してみることでなく、想像力を働かせて新しい考えを生み出すような

D○2点

E○3点

F○2点

創造的な思考も含めた、試行錯誤しながら粘り強く課題を探究し、何かに解答を与えようとする総合的な行為であるから。

- 採点方法…各要素単独採点

- 字数…八十次～百字 **三十九字以下のものは全体不可(0点)**

- 要素A「思考とは」…1点

- ・ 主題提示。答案中のどこかにあれば可。

- 要素B「前提を疑い再検討してみることでなく」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C「想像力を働かせて新しい考えを生み出す」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。
- ・ 「想像力」が必須。不足の場合は1点。

- 要素D「創造的な思考も含めた」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E「試行錯誤しながら粘り強く課題を探究し」…3点

- ・ 「試行錯誤」に相当する説明があり、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「粘り強く」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「何かに解答を与えようとする総合的な行為である」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「総合的な」を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 文末表現は「…から…ので」という形が原則。理由説明答案の文末表現として不適切であると判断される場合はマイナス1点。

#### 問四 16点

■形式上の不備

- ・ 文末表現は要素H参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A○2点

B○2点

C○2点

D○3点

科学的探究の過程で、いくつかの前提をもとにある考えを具体化してマニュアル化し、人々が共有できる

E○2点

F○2点

制度になったものが技術であり、哲学は技術が拠って立つ前提を検証し、それが本来の目的に奉仕している  
G○3点  
かを問い直し、広い文脈の中で意味付け直そうとする。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百字〜百二十字 四十九字以下のは全体不可(0点)

■要素A 「科学研究の過程で」…2点

- ・ 「技術」が「科学(研究)」と結び付いていることが読み取れば可。

■要素B 「いくつかの前提をもとに」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「ある考えを具体化してマニュアル化し」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「人々が共有できる制度になったものが技術であり」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「人々が共有できる」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「哲学は技術が拠って立つ前提を検証し」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「(哲学は)それ(=技術)が本来の目的に奉仕しているかを問い直し」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「哲学は技術を」広い文脈の中で意味付け直そうとする」∴3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「広い文脈の中で」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素H 「技術」の内容、および、それと「哲学」との関係を説明する答案の文末表現として妥当である

と判断できれば広く許容して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。



三 古文 50点

問一 各3点×2＝計6点 語句の意味

\* 文末の句読点は不問。

△1点減点 語句の意味であるので、余分な補いは(a)(b) 毎に1点減点。

× 不適切な補いは各(a)(b) 不可。

傍線部(a) 「ゆかしければ」 【3点】

A○2点 B○1点

「模範解答例」 見たいので

「加ポイント」

\* Aが不可であればBには加ポイントしない。

A 見たい 【2点】

\* 「ゆかし」の訳。

\* 「ここまで来たついでに、念珠が関も見たいので、行って見ようと思う。」の文脈。

○ 「見てみたい／行きたい／訪れたい／見物したい」など、また「心ひかれる／慕わしく思われる／興味が引かれる／興味深い」の方向でも可。

△1点 「知りたい」は文脈にやや合わず1点。

× 「聞きたい／読みたい／懐かしい」などは文脈上不可。

B ので 【1点】

\* 「ば」の順接確定条件の理由の訳。

○ 「ので／から／ため」などで可。

× 「ならば」など仮定や「して／と」など単純接続は不可。

傍線部(b) 「げに」 【3点】

A○3点

「模範解答例」 本当に

「加ポイント」

A 本当に 【3点】

\* 「げに」の訳。

\* 「やつとのことだどり着いてみると、本当に、この岩は聞いていたよりも見ると一段と凄い。」の文脈。

○ 「なるほど／いかにも／本当に／確かに」「実際に／現実に」「まことに／まったく／実に」など現実を肯定する意味合いや強調する意味合いで可。

「設問」傍線部（A）「関守のおこたりなきやうなる名なれど 人も居ず、鼠喰岩といふより言ひなれたる」の説明。

A〇2点

「模範解答例」 「ねずが関」という関所の名は、

B〇4点

C〇2点

関守が仕事を怠ることなく寝ずに番をしているかのような名であるが、実際には関守もおらず、

D 4

実は、鼠喰い岩という岩の名前から言い習わされて付いた名である ということ。

\* 文末は「こと」または体言（に準じる形）。「〜ことを言っている。」などは可。不備は1点減点。

「加ポイント」

\* 各ポイント分離加点点してよい。

A 「ねずが関」という（関所の名は）【2点】

○ 傍線部が「ねずが関」という名についてのことであると分かれば可。

× 「ねずが関」は「念珠が関／鼠が関」などでは不可とする。

× 傍線部の直前をそのまま書くべきところであるので「ねずみが関」「ねづが関」などは誤写扱いにせず、  
A 不可とする。

B 関守が（仕事を怠ることなく）寝ずに番をしているかのような（名である）【4点】

\* 「関守が 寝ず／寝ない／寝ることない ような」（寝る）は「眠る」でもよしとする（）の趣旨で可。

△2点 「関守が寝ないようにするために命名された／関守を寝させないために付けた名」などやや不正確であれば適宜2点。

× 「関守が仕事を怠ることのないような名」のみは不可。

C （実際には）関守もいない【2点】

\* 「実際には」はなくても良い。また、「関守」は「人」でも良い。

× 「人も居ず／人が居ず／ひともしず」は言い換え不十分で不可。「実際に／関を守る人も居ず」も不可。

○ 「居る」を「居ない／いない／居らず／おらず」などと直していれば許容する。

（例）「人も居ない／人が居ない／人もいない／人もおらず／実際に人はいない」など可。

D （実は、）鼠喰い岩という岩 の名前から言い習わされて付いた名である【4点】

○ 「鼠喰（い）岩／鼠が喰い抜いたかのような岩（があること）に由来する／の名前が言い習わされた」という趣旨で可。「言い習わす」の表記は「言い慣わす」でも可。

△2点 「鼠が喰い抜いた岩」「鼠喰岩の 名前から言われるようになった」のようになどやや不正確であったり、説明不十分であれば適宜2点。

× 「言いなれた／言い慣れた」の傍線部の表現のままは不可。

×「念珠が関と言い習わされている」など「ねずが関」「鼠が関」以外の名に「言い習わされている」という趣旨であれば不可。

問三 8点

「設問」傍線部(B)「畳の十ひらばかりも敷くべき岩屋など、目なれぬ事どもを見れど、暑きに道にこうじて  
ことの葉もなし。」の現代語訳。

A〇2点

B〇2点

「模範解答例」

畳を十枚ほども敷くことができる岩屋など、

見慣れない事も数々目にするけれど、

C〇3点

D〇1点

暑さのために道の途中で疲れて、言葉も出ない。

\* 文末の句読点の有無は不問。

\* 中抜け／中断しているものも不問として、加点できるポイントには分離加点してよい。

「加点ポイント」

\* 各ポイントで▼で挙げた箇所の訳が不適切であれば1点ずつ減点する。それ以外の部分に抜けや不適切な言い換えがあれば同様に1点ずつ減点する。

A 畳を 十枚 ほども 敷くことができる 岩屋など【2点】

▼「ひら」「ばかり」「敷くべき」の訳。

○「ひら」は「枚／畳」と訳して可。

○「ばかり」は「ほど／くらい／ぐらい」などの訳で可。

○「敷くべき」は「敷くことができる／敷ける」など可能の意で可。意志／推量／当然／適当は何れも不可。

△1点減点 何れも「ひら」「ばかり」「べき」のままは1点減点。その他の不適切な訳であれば1点減点。

○「岩屋」はそのままで良いが「岩室／洞窟／洞穴」などとしても可。

△1点減点「岩で造った屋敷／部屋」などと誤った言い換えは1点減点。

B 見慣れない 事も数々 目にする けれど【2点】

▼「目なれぬ」「事ども」「ど」訳。

○「目なれぬ」は「見馴れない／見慣れぬ／見なれぬ／見慣れていない／珍しい／目新しい／新奇なこと」などの訳で可。

△1点減点「目なれぬ／目慣れない／目に慣れないこと」など言い換え不十分は1点減点。

○「事ども」は「事も数々／事をいろいろ／事々」など事物の複数の意が訳されて可。

△1点減点「事ども」「ものたち／ことたち」など1点減点。

○「ど」は「けれど／けれども／が」など逆接で可。「といっても」は許容。

○「目にする」は「見る」のままや「見える」も可。

C 暑さのために 道の途中で 疲れて【3点】

- ▼「暑きに」「道に」「こうじて」の訳  
○「暑きに」は「暑さのために／暑さで／暑くて」や「暑い道中で」などで可。「いので／いによって」の  
意味合いで可。

△1点減点「暑きに／暑さに」などほぼそのままの言い換え不十分は1点減点。

○「道に」は「道で／道の途中で／途中で／道中で／道中に」などほぼそのままが良い。

△1点減点「道に」のままは言い換え不十分は1点減点。

○「こうじて」は「疲れて／くたびれて／疲労して」などで可。

△1点減点「悩む／困る」の方向の訳や「苦しい／辛い」の訳は1点減点。

D 言葉も出ない【1点】

○「言葉も出ない／言葉も出せなかった／何も言えなかった」の趣旨で可。

「口もきけない／無口になった」など可。

×「表現のしようもないほどであった」の趣旨は不可。

×「言葉もない」などほぼ原文のままで不可。

問四 12点

「設問」 傍線部(C)「ことなる事も あらば いかによや、と胸騒ぎて 急ぎ帰りぬ」の「ことなる事」  
を  
具体的にした現代語訳。

\* 文末の句読点の有無は不問。

\* 中抜け／中断しているものも不問として、加点できるポイントには分離加点してよい。

A 〇3点

B 〇4点

C 〇3点

「模範解答例」飢えて物乞いをするような者に 物を盗まれるというような とんでもない事でも

D 〇2点

起きたら どうしようか、と胸騒ぎがして 急いで帰った。

「加点ポイント」

\* 各ポイント分離採点してよい。

\* A/B/Cは「ことなる事」の説明。Dは傍線部の訳。

\* Dは▼で挙げた箇所の訳が不適切であれば1点ずつ減点する。

A 飢えて 物乞いをする (ような) 者(に)【3点】

\* 「今年は飢ゑたる国多くて物乞う者ども多く居たるが」による。

○「飢ゑたる者に／物乞い(する者)に」いずれかが良い。

○「お腹をすかせた者／生活に困ったもの」など同趣旨の表現で可。「乞食」も許容。

△1点「ホームレス」など古文の訳として違和感がある表現は適宜1点としてよい。

△1点「飢ゑたる者」「物乞う者」など原文のままに近いものは1点。

×「盗賊が／盗人が」は不可。

**B 物を盗まれる(というような)【4点】**

- 「物／持ち物／荷物 を盗まれる」「盗みをされる／盗みにあう／盗みをはたらかれる」の趣旨で可。
- 原文に近い「(物乞いするものが) 盗人を働く／盗人をする」も許容する。
- △1点 ただし「盗人をなす」のままは1点。
- △1点 強盗する／略奪する」などの表現は1点。
- × 「襲う／襲撃する／攻撃する」などは不可。

\* A/Bは「飢えて 物乞いをする (ような) 者が (筆者たちの) 物を盗む」のように受身でなくとも可。

**C とんでもない事(でも)【3点】**

\* 「ことなる事」の解釈。

○ 「とんでもない事」は「大変なこと／一大事／尋常でないこと／ただごとでない事／穏やかでない事／普段では起きそうもないこと」等でも良い。「事件／事故」などは許容。

× 原文に近い「ことなる事／異なったこと／違うこと／いつもと違うこと」や辞書の意味のまま「特別なこと／格別なこと」「風変わりなこと」などいずれも不可。

**D 起きたら どうしようか、と胸騒ぎがして 急いで帰った【2点】**

▼ 「あらば」「いかにぞや」「と胸騒ぎで」「急ぎ帰りぬ」の訳。

○ 「あらば」の訳は「起きたら／あつたら／あれば」「もし〜起きると(あると)」「〜」などで可。仮定の意味合いは必須。

△1点減点 「もし」がない「起きると(あると)」「は1点減点。

○ 「いかにぞや」の訳は「どうしようか／どうしたらよいか／どうしよう」など可。また「どうようもない」(反語) も可とする。

「どうであろうか／どんなものだろうか／どうなるだろうか」は許容。

△1点減点 「なぜだろうか／どういうわけなのか」は「と胸騒ぎで」に続かず1点減点。

○ 「と胸騒ぎで」の訳はほぼそのまま「胸騒ぎがして／胸が騒いで」や「心配で／不安になって」「不吉な／悪い」

予感がして／気がして」などでも可。

○ 「急ぎ帰りぬ」も「急ぎ帰った」や「急いで 帰ってしまった／宿へ帰った」などで可。

△1点減点 現在の「帰る」は1点減点。

「設問」傍線部(D)の和歌「かすむ空の かぎりもなみに 映ろひて 入日のかげに にほふ海原」の修辞と情景の説明。

A ○3点

B ○1点

「模範解答」

「なみ」が、限りが「無い」意味と「波」の意味との掛詞で、

C ○3点

D ○1点

霞がかかっている空が限りなくどこまでも 波の上に映っていて、

E ○2点

F ○2点

沈んでいく夕日の光で 美しく見える海原 の情景。

\* 文末は不問だが、「から」など理由説明になっているものは1点減点。

「加点ポイント」

\*各ポイント分離採点してよい。

**A (「なみ」に) 限りが「無い」意味と「波」の意味(が掛かっている) 【3点】**

○ 『波』に『無い』の意が掛かっている」という説明があれば可。

○ 「無い」は「み」の理由の意味を説明して「無いので」と説明していても可。また「無」としても可。また「ない」と平仮名にしても許容。「限りがない」や「海のなみ」などと説明していれば許容してよい。

\* 「限りが」はなくても良い。

\* 「なみ」は形容詞「なし」の語幹の「な」に原因理由の接尾辞「み」がついたものであるが、解答例以上の

説明に誤りがあっても解答例で説明した部分ができているれば許容してよい。

○ 『な』が『無』と『波』の『な』との掛詞」という書き方でも許容する。

**B (「なみ」が) 掛詞である 【1点】**

○ 「なみ(な)」が「掛詞／懸詞」であると示して可。「なみ」は和歌のその箇所とわかればよい。

× 「掛詞」がなく「掛かっている」のみには加点しない。

**C 霞がかかっている 空が 限りなくどこまでも 【3点】**

\* 「かすむ空の かぎりもなみに」の解釈

○ 「霞む 空が 限らない」の3要素が揃って3点。

**D 空が 波の上に 映っている 【1点】**

\* 「(かすむ) 空の (かぎりも) なみに 映ろひて」の解釈。

○ 「空が 波に 映っている／写る」「波が 空を 映している」の趣旨で可。3要素揃って1点。

× 「入り日／太陽が 波に 映っている」は不可。「霞／雲が」はDでは不可。

E 沈んでいく夕日の 光で【2点】

\* 「入日のかげに」の解釈。

○ 「夕日の」「光で」の2要素揃って2点。

\* 「入日」の訳は「入日／入り日」のままでも可。「夕日／落日／落陽／沈んでいく太陽」など可。

\* 「かげ」の訳は「光」で可。「影／姿／陰っている」などと訳していれば不可。

△ 1点「で」は「に」でも良いが「が」となっている場合は1点。

F 美しく見える 海原（の情景）【2点】

\* 「にほふ 海原」の解釈。

○ 「海原が 美しい」の趣旨で可。「海原」「美しい」の要素が揃って2点

\* 「海原」は「海」でも可。

\* 「にほふ」の解釈は「美しい／美しく映える」で可。「映して」と上であれば「趣深い／魅力的だ」などの表現も広く許容する。

また「輝いている」「映える」のみは不可とするが「茜色に映える／紅に輝く」など傍線部前の本文を踏まえて説明していれば可。